宿命

後藤傳一郎

海は俺の成熟する場所であつた
毒酒と
獨斷と
孤高と
白濁した波濤は赤い火塊を生む
朝明け俺はこの太陽を抱いた
祝宴の樂は打ち鳴らされ
　叡智は高塔の窓に映え！
されど世代は汪洋と流動しなければならぬ
　別離は宿命の破片と凍つて
あゝこの畸形兒
焼け爛れた冷酷
海は虚構の歌をさめ〴〵と泣いてゐる

最後の光線が
　黑潮の彼方より引き裂かれた瞬間
太陽は白い肉体に戰慄した
海は俺の脫走する場所であつた

春　風

金子正信

街には春風が吹いてゐた
春風は
黑いマントを
意地惡くあふつた
春風は虛僞を嫌惡した
春風は
若者の虛飾をはぎとらせ
香ぐはしき